

尾鷲市地域公共交通活性化協議会

平成20年5月28日設置

フィーダー系統

平成27年5月25日確保維持計画策定

1. 協議会が目指す地域公共交通の姿

● 地域の特性と背景

○本市は、市域の約92%が山林で、沿岸部には変化に富んだリアス式海岸が形成されるなど、豊かな自然環境に恵まれている一方、市街地周辺部には10ヶ所の集落が点在し、それぞれの地域において過疎高齢化が進行していることから、これらの各地域の公共交通をいかにして結ぶかが重要な課題となっている。

● 総合連携計画の策定とふれあいバスの運行

- 平成16年3月に尾鷲市交通体系計画を策定し、ふれあいバス八鬼山線の試験運行の後、平成18年10月より本格運行。
- 平成21年3月に「尾鷲市地域公共交通総合連携計画」を策定し、平成21年度から平成23年度の3年間、市内のバス路線を再編し実証運行を実施。
- 現在、JR紀勢本線、高速バス（名古屋南紀高速線、南紀特急線）、路線バス（尾鷲長島線、島勝線）、ふれあいバス（八鬼山線、ハラソ線、尾鷲地区、須賀利地区）、タクシーが運行。

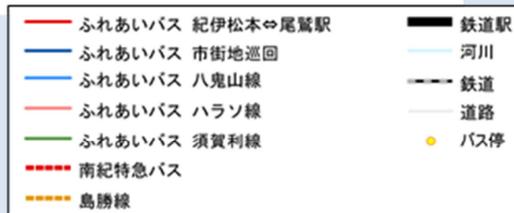
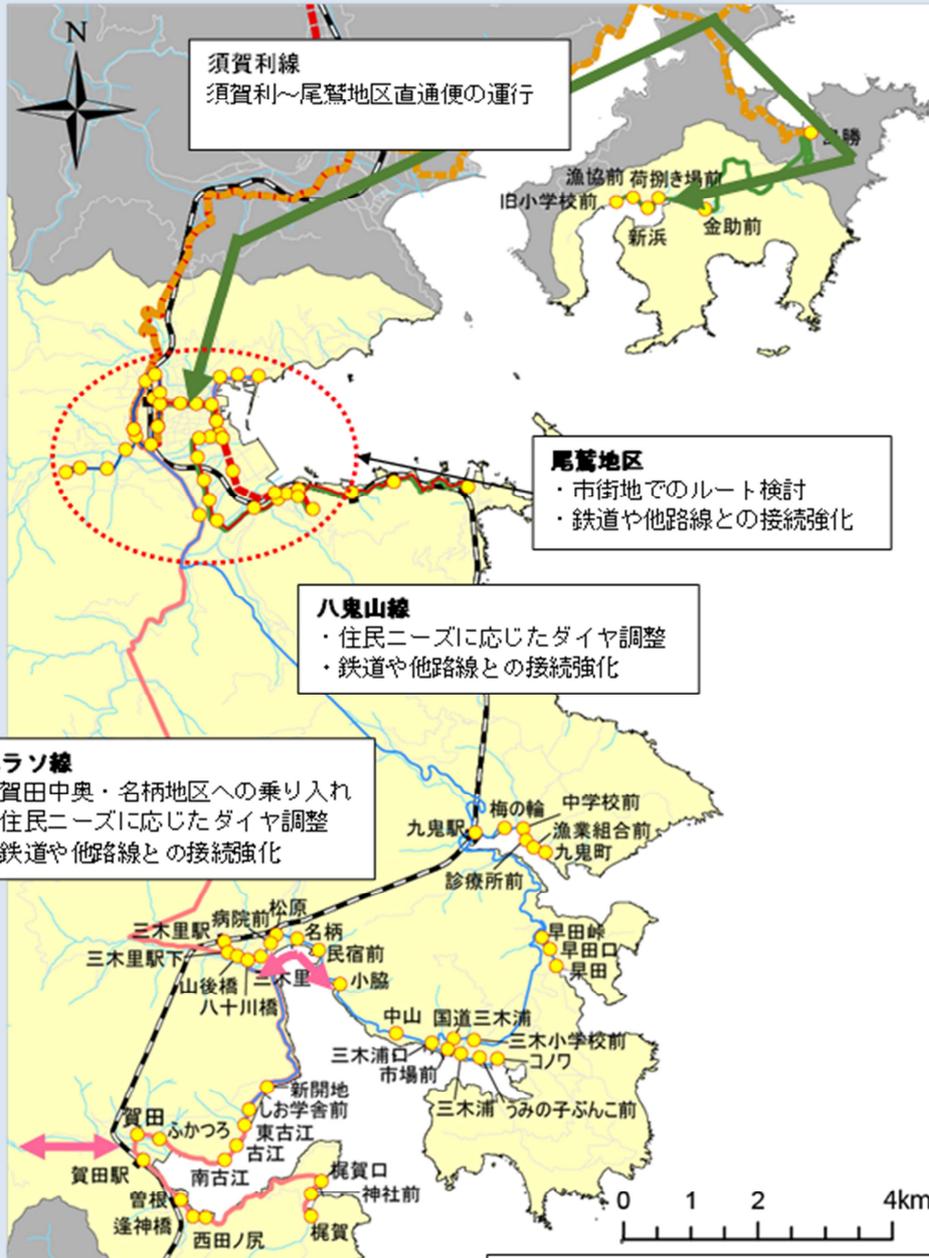
● 網形成計画の策定に向けた取り組み

- 連携計画の計画期間が終了したこと、市内の各地域から公共交通改善の要望が提案されていることを踏まえ、人口減少が続く中で高齢者や交通弱者等の実情に応じた公共交通のあり方を模索し、まちづくりと連動した持続可能な公共交通を実現するため、「尾鷲市地域公共交通網形成計画」を策定中。
- 策定にあたり、次の実態調査、市民の意向把握を実施
 - ・交通手段ごとの利用者数等の現状の整理
 - ・市民アンケート調査
 - ・ふれあいバス利用者ヒアリング調査
 - ・住民懇談会による地域の意向把握（市内11地区別に実施、参加205名）
 - ・交通事業者ヒアリング

● 網形成計画の方向性（策定中）

- 目標 「人口減少時代にも持続可能な公共交通を確保し、定住促進・地域の活性化を目指す」
- 期間 平成29年度～平成33年度の5年間
- 基本方針
 - ①地域ごとの特性に応じた公共交通網の形成とサービスの確保
 - ②まちづくりと連携した総合的な地域公共交通の確保
- 公共交通ネットワーク見直しの方向性
 - ・鉄道・高速バス・路線バスとふれあいバスとの接続に配慮
 - ・ふれあいバスは、市内の集落地域から市街地まで直接連絡するルートを確保するとともに、地域の鉄道駅との接続にも配慮
 - ・集落地域を通るふれあいバス路線では、集落内を運行し、利便性を確保

公共交通ネットワークの現状と検討の方向性



2. 計画の達成状況の評価に関する事項

○バス利用者に対する満足度調査

	目標値 (H28年度)	実績 (H28年度)	評価
八鬼山線	0.75	0.74	満足度の向上に向けた取組が必要。
ハラソ線	0.91	0.91	継続して高い満足度を保っていく。
尾鷲地区	0.85	0.89	満足度の向上が図れた。
須賀利地区	0.77	0.69	利用促進策で利用者は増加傾向だが、満足度が下がっている。市街地への直通便の要望への対応が必要。
満足+2、概ね満足+1、普通0、やや不満-1、不満-2 の平均値			

○地区センター管内から尾鷲高校への通学確保

	目標値	実績	評価
割合	30%	26%	23人中6人がバスを利用して通学しているため、引き続き通学手段の確保を行っていくとともに、利用者の増加につなげていく。

- 尾鷲市地域公共交通網形成計画においては、公共交通確保の基本方針に対応した目標を設定して評価する。(数値目標は検討中)
- 毎年、尾鷲市地域内フィーダー系統確保維持計画の評価を行い、尾鷲市地域公共交通活性化協議会に報告し、改善を図っていく。
- 目標数値を下回った際には、利用者アンケートの中で不満と答えた方の原因を聞き取った内容を精査し、不満内容の改善を図っていく。

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

1) 取組み経緯

- 尾鷲市地域公共交通総合連携計画（計画期間平成 21 年度から 23 年度）が終了したが、地域から様々な改善要望がでていることから、今年度（平成 28 年度）、地域公共交通網形成計画を策定中。

計画策定に合わせて、以下の内容の調査を実施。

- 市民アンケート調査

調 査 期 間	平成 28 年 9 月 28 日（水）～10 月 12 日（水）
調 査 対 象	18 歳以上の市民
調 査 方 法	郵送による配布・回収
配 布 数	1,500 票
回 収 数【回 収 率】	692 票【回収率 46.1%】

- ふれあいバス利用者アンケート調査

調 査 期 間	平成 28 年 9 月 16 日（金） 天候：雨一時曇り
調 査 対 象	ふれあいバス利用者
調 査 方 法	バス車内でのヒアリング及びアンケート配布・回収
回 答 数	八鬼山線 30 票、ハラソ線 26 票、尾鷲地区 45 票、須賀利地区 8 票 合計 109 票（アンケートは全体で 185 票回収したが、行きと帰りで 2 回答された方は、行きのみ有効として集計した）

- 住民懇談会（11 地区別）を実施。

地区	日 時	場 所	参加者
須賀利	11 月 14 日（月） 18:00	須賀利漁民センター	40 名
九鬼	11 月 15 日（火） 18:00	九鬼コミュニティーセンター	14 名
三木浦	11 月 16 日（水） 15:00	三木浦コミュニティーセンター	32 名
名柄	11 月 17 日（木） 18:30	名柄町 青松寺	16 名
早田	11 月 18 日（金） 13:30	早田コミュニティーセンター	24 名
三木里	11 月 21 日（月） 19:00	三木里コミュニティーセンター	8 名
古江	11 月 22 日（火） 15:00	古江コミュニティーセンター	20 名
賀田	11 月 24 日（木） 13:00	賀田コミュニティーセンター	22 名
梶賀	11 月 25 日（金） 15:30	梶賀コミュニティーセンター	17 名
尾鷲	11 月 30 日（水） 18:30	市役所 3 階 第 2・3 委員会室	2 名
曾根	12 月 2 日（金） 18:00	曾根コミュニティーセンター	10 名

- 協議会は、平成 28 年度 4 回開催の予定。

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

2) 目標を達成するために行う事業・実施主体

① 各事業の着手時期・実施期間及び事業主体

【補助対象事業】

• 地域公共交通確保維持改善事業

- 南紀特急、尾鷲長島線・島勝線（地域間幹線）の運行【三重交通】
- ふれあいバス（フィーダー）の運行【平成18年より継続、尾鷲市】
- 調査事業（網形成計画の策定）【平成28年度、尾鷲市】

- その他補助事業 なし

【非補助事業】

- 毎年、バス車内、停留所において利用者アンケートを実施【尾鷲市】

② 公共交通利用促進計画

【補助対象事業】

• 地域公共交通確保維持改善事業 なし

- その他補助事業 なし

【非補助事業】

- ふれあいバス須賀利地区と三重交通島勝線との乗継割引（990円→600円）

【尾鷲市】

- 地元スーパーとの協賛事業（2,000円以上の買い物で200円のふれあいバス割引券を配布）【尾鷲市・地元スーパー】

4. 具体的取組みに対する評価

- 計画策定事業

利用実態のデータや下記のニーズ等を踏まえ、計画を策定中。協議会において、形成計画の策定にむけた議論をしており、平成28年度中に策定予定。

- 市民アンケート調査及びふれあいバス利用者アンケート調査

市民ニーズの基礎的データとして活用。量・質ともに確保できた。

- 住民懇談会

地域ごとに異なる意見・ニーズについて、11地区ごとに開催した住民懇談会で把握。住民からの具体的かつ深刻な状況や要望を把握できた。

- 尾鷲市地域内フィーダー系統確保維持計画に掲げられた目標値についての評価

- バス利用者に対する満足度調査

	目標値 (H28年度)	実績 (H28年度)	評価
八鬼山線	0.75	0.74	満足度の向上に向けた取組が必要。
ハラソ線	0.91	0.91	継続して高い満足度を保っていく。
尾鷲地区	0.85	0.89	満足度の向上が図れた。
須賀利地区	0.77	0.69	利用促進策で利用者は増加傾向だが、満足度が下がっている。市街地への直通便の要望への対応が必要。
満足+2、概ね満足+1、普通0、やや不満-1、不満-2 の平均値			

- 地区センター管内から尾鷲高校への通学確保

	目標値	実績	評価
割合	30%	26%	23人中6人がバスを利用して通学しているため、引き続き通学手段の確保を行っていくとともに、利用者の増加につなげていく。

- ふれあいバス4路線の輸送実績一覧表（平成27年4月から平成28年3月）

項目	尾鷲地区	須賀利地区	八鬼山線	ハラソ線	合計
運行日数	366日	314日	366日	366日	—
乗車人員	16,639人	2,384人	22,928人	15,049人	57,000人
運賃収入	1,994,014円	209,500円	6,839,466円	6,927,785円	15,970,765円
運行費用	10,898,447円	6,958,335円	23,915,355円	20,855,875円	62,628,012円
収支率	18.30%	3.01%	28.60%	33.22%	25.50%
国庫補助	1,908,000円	764,000円	3,750,000円	2,332,000円	8,754,000円
市負担	6,996,433円	5,984,835円	13,325,889円	11,596,090円	37,903,247円

ふれあいバス4路線については、事故もなく安全・安心な運行を行うことができた。

今後、利用者や住民の要望などから、より利便性の高い形へと改善を図っていきたい。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

①目標の達成状況に関する課題

- 市民ニーズに対応したルート、ダイヤの見直し等による市民満足度の向上

②公共交通ネットワークに関する課題

- 地域ごとの住民要望への対応
 - 八鬼山線：ふれあいバスのダイヤ調整、尾鷲駅接続
 - ハラソ線：賀田中奥、名柄地区への延伸
 - ふれあいバスのダイヤ調整、尾鷲駅接続
 - 尾鷲地区：交通不便地域への対応
 - 須賀利地区：尾鷲直通便、島勝での待機時間延長
- JR尾鷲駅への八鬼山線、ハラソ線の乗り入れとダイヤ調整（特急連絡等）

③公共交通の維持に関する課題

- 集落支援員活用の検討（九鬼地区で検討中）
- ふれあいバス須賀利地区と三重交通島勝線との調整

①の課題については、②、③の実現を踏まえて対応。

②、③の課題については、尾鷲市内の全体的な公共交通網の再構築に向けて、ふれあいバス4路線の新たなダイヤを組むため、関係機関との調整を進めており、実現可能性を検討中。

・賀田中奥、名柄地区への延伸に向けて、回転場所の確保を行う。

・三重交通との調整により、新たな時刻表案の作成。

・JR尾鷲駅への乗り入れに向けて、JR尾鷲駅、三重交通、タクシー会社等との調整。

1. 直近の第三者評価の活用・対応状況

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
須賀利地区を含めたふれあいバスの検討を進めること	紀北町・三重県との会議を設置し検討中。 須賀利地区から尾鷲までの直通便の可能性について、三重交通と協議中。	須賀利から尾鷲への直通便は、1便だけでも実現にむけて進めたい。
島勝線の乗継運賃補助については有効な取組	飛び地である須賀利地区から尾鷲市街地までのふれあいバス利用者に対して、三重交通島勝線への運賃補助を継続して行っている。	継続して実施。
鉄道・高速バスとの接続を意識したダイヤ設定や商業施設とのタイアップの取組を強化	ふれあいバス4路線とJR、高速バスとの接続の強化を行うための、運行ルート、ダイヤ改正等の実施計画を検討中。 市内商業施設とのタイアップの取組を継続して実施しており、対象となる民間事業者の拡大を目指している。	尾鷲市地域公共交通網形成計画の策定に反映したい。 観光資源との連携についても検討していきたい。
鉄道・バス・タクシーを包括的に考えた計画の策定を期待	地域公共交通網形成計画の策定に併せて、交通事業者との協議を行い、鉄道とバスとの接続を考慮したふれあいバス運行ダイヤ検討中。	尾鷲市地域公共交通網形成計画の策定に反映したい。

2. アピールポイント

地域公共交通網形成計画の策定に併せて、住民アンケート、ふれあいバス利用者アンケートを実施し、公共交通に対する意見を把握し、改善に向けて課題を洗い出すとともに、全ての集落を対象に住民懇談会を実施し、地域毎の住民の声を把握し、地域が望むものを把握した。

整理した課題を基に、新たな公共交通網を形成するため、JR、バス、タクシー会社などの交通事業者との協議を進め、尾鷲市全体の公共交通をどのようにしていくのかを検討している。

平成29年3月に地域公共交通網形成計画を策定予定であり、それに併せて新たなふれあいバスのダイヤ等を組み立てている。

①ふれあいバス路線ごとの利用者の評価を把握

毎年、バス車内、停留所において利用者アンケート調査を実施し、公共交通に対する評価を継続して把握している。

②民間事業者とのタイアップによる利用促進の継続

地元スーパーとのタイアップ事業（一定の買い物でふれあいバス割引券を配布）を継続して実施している。

③11地区ごとに住民懇談会を開催して、地域ごとのニーズを把握

平成28年11～12月に11地区ごとに公共交通に関する住民懇談会を開催し、住民の切実な要望など、様々な意見を把握できた。この意見を可能な限り形成計画に反映していきたい。

④市民アンケートの実施

無作為抽出した市民1,500人に対し公共交通に関するアンケート調査を実施し、市民の声を把握した。

⑤ふれあいバス乗り込み調査

毎年の満足度調査とは別に、地域公共交通網形成計画策定における課題抽出のため、ふれあいバス4路線にそれぞれ乗り込みアンケート調査を行い、ふれあいバス利用者の生の声を聞き取った。

⑥地域主体の公共交通の取組

九鬼地区において、地域住民が主体となって、集落支援員を活用した交通運行の検討が始まっている。地域自らの取組であるが、市全体の公共交通ネットワークとの整合性、一体化に配慮して検討を支援していきたい。